

NCD での鼠径部ヘルニア・症例登録

- ・ 開始時期: 2021 年から、NCD での鼠径部ヘルニア・症例登録が開始されます。(2021 年 4 月以降になる予定)
- ・ 対象施設: 全登録ではなく、対象施設を限定した形で開始します。(施設・診療科の限定登録)
- ・ 対象疾患: 鼠径部ヘルニア手術
NCD 上で、以下の術式が選択された場合に、詳細な症例登録が展開される形になります。
 - 1) ヘルニア手術(腹腔鏡下) 鼠径ヘルニア
 - 2) ヘルニア手術(直視下) 鼠径ヘルニア
 - 3) ヘルニア手術(腹腔鏡下) 大腿ヘルニア
 - 4) ヘルニア手術(直視下) 大腿ヘルニア

鼠径部ヘルニア～施設・診療科限定症例登録(4項目の追加)

- ・ 1 項目目: 今回の部位～「右」「左」をチェック(両側の場合はそれぞれにチェックを入れる)
- ・ 2 項目目: 「初発」か「再発」かをチェック(左右、それぞれで選択)

初発: ()

再発: () 回目の再発(再発回数を入力)

1 回目の再発の場合

前回手術時の年齢: () 歳、() 不明: 推定年齢 () 歳(何歳か不明な場合は、不明をチェックし推定年齢入力する)

前回手術術式: () 鼠径部切開・非メッシュ法

- () 鼠径部切開・メッシュ法
- () 腹腔鏡下手術・非メッシュ法
- () 腹腔鏡下手術・メッシュ法
- () ロボット支援下手術
- () その他(不明)

複数回の再発の場合(前回手術と初回手術の年齢と術式を入力する)

前回手術時の年齢: () 歳、() 不明: 推定年齢 () 歳(何歳か不明な場合は、不明をチェックし推定年齢入力する)

前回手術術式: () 鼠径部切開・非メッシュ法

- () 鼠径部切開・メッシュ法
- () 腹腔鏡下手術・非メッシュ法
- () 腹腔鏡下手術・メッシュ法

ロボット支援下手術

その他(不明)

初回手術時の年齢: ()歳、()不明: 推定年齢()歳(何歳か不明な場合は、不明をチェックし推定年齢入力する)

初回手術術式: ()鼠径部切開・非メッシュ法

鼠径部切開・メッシュ法

腹腔鏡下手術・非メッシュ法

腹腔鏡下手術・メッシュ法

ロボット支援下手術

その他(不明)

・ **3 項目目**: 手術術式の選択(左右、それぞれで選択)

高位結紮術

高位結紮術以外の組織縫合法

オンレイ・メッシュ法

プラグ・アンド・メッシュ法

アンダーレイ・メッシュ法

その他の鼠径部切開によるメッシュ法

腹腔鏡下経皮的腹膜外閉鎖術(LPEC)

腹腔鏡を用いた腹腔内到達法による腹膜前修復術(TAPP)

- 腹腔鏡を用いた腹膜前到達法による腹膜前修復術(TEP)
- 腹腔鏡併用・鼠径部切開法(施行した鼠径部切開法を選択)
- ロボット支援下手術
- その他

腹腔鏡併用・鼠径部切開法を選択した場合は、施行した鼠径部切開法を選択

- 高位結紮術
- 高位結紮術以外の組織縫合法
- オンレイ・メッシュ法
- プラグ・アンド・メッシュ法
- アンダーレイ・メッシュ法
- その他の鼠径部切開によるメッシュ法

・ 4項目目:鼠径部ヘルニアの分類(左右、それぞれで選択)

国際分類(European Hernia Society (EHS)分類)に準じた新たな分類(新 JHS 分類)で登録。

ヘルニア門の大きさは術中診断とし、成人の1横指=1.5cm として測定する。

- L1 型 間接(外)鼠径ヘルニア(軽度、ヘルニア門が1.5cm 未満、または、人差し指の先端で1横指未満)
- L2 型 間接(外)鼠径ヘルニア(中等度、ヘルニア門が1.5~3.0cm 未満、または、一横指以上2横指未満)

- () L3 型 間接(外)鼠径ヘルニア(高度、ヘルニア門が 3.0cm 以上、または、2横指以上)

- () M1 型 直接(内)鼠径ヘルニア(軽度、ヘルニア門が 1.5cm 未満、または、人差し指の先端で2横指未満)
- () M2 型 直接(内)鼠径ヘルニア(中等度、ヘルニア門が 1.5～3.0cm 未満、または、1横指以上2横指未満)
- () M3 型 直接(内)鼠径ヘルニア(高度、ヘルニア門が 3.0cm 以上、または、2横指以上)

- () F1 型 大腿ヘルニア(軽度、ヘルニア門が 1.5cm 未満、または、人差し指の先端で1横指未満)
- () F2 型 大腿ヘルニア(中等度、ヘルニア門が 1.5～3.0cm 未満、または、1横指以上2横指未満)
- () F3 型 大腿ヘルニア(高度、ヘルニア門が 3.0cm 以上、または、2横指以上)

- () 併存型(L 型、M 型、F 型のうち、2 つ以上のヘルニアが併存した場合)

- () 特殊型(L 型、M 型、F 型に属さない鼠径部に発生する特殊なヘルニア)

- () ヘルニア類似病変(ヘルニア嚢がなく、精索脂肪腫、精索水腫または陰嚢水腫、ヌック管嚢腫、精索静脈瘤などを認める場合)

- () ヘルニアなし(手術を行ったが、ヘルニア嚢およびヘルニア類似病変を認めなかった場合)

・ 併存型を選択した場合は、以下の項目から併存病変を選択

- L1 型 間接(外)鼠径ヘルニア(軽度、ヘルニア門が 1.5cm 未満、または、人差し指の先端で1横指未満)
- L2 型 間接(外)鼠径ヘルニア(中等度、ヘルニア門が 1.5～3.0cm 未満、または、一横指以上2横指未満)
- L3 型 間接(外)鼠径ヘルニア(高度、ヘルニア門が 3.0cm 以上、または、2横指以上)

- M1 型 直接(内)鼠径ヘルニア(軽度、ヘルニア門が 1.5cm 未満、または、人差し指の先端で2横指未満)
- M2 型 直接(内)鼠径ヘルニア(中等度、ヘルニア門が 1.5～3.0cm 未満、または、1横指以上2横指未満)
- M3 型 直接(内)鼠径ヘルニア(高度、ヘルニア門が 3.0cm 以上、または、2横指以上)

- F1 型 大腿ヘルニア(軽度、ヘルニア門が 1.5cm 未満、または、人差し指の先端で1横指未満)
- F2 型 大腿ヘルニア(中等度、ヘルニア門が 1.5～3.0cm 未満、または、1横指以上2横指未満)
- F3 型 大腿ヘルニア(高度、ヘルニア門が 3.0cm 以上、または、2横指以上)

・ ヘルニア類似病変を選択した場合は、以下の項目からヘルニア類似病変を選択

- 精索脂肪腫
- 精索水腫または陰嚢水腫
- ヌック管嚢腫
- 精索静脈瘤
- その他

補足説明:

- * 鼠径部ヘルニアと同時に他の腹壁ヘルニアが存在した場合は、併存型とはせずに、鼠径部ヘルニアのみで分類を行う。

具体例

1) L2 型と閉鎖孔ヘルニアの合併例 → L2 型に分類

2) M3 型と F1 型 → 併存型に分類

- * インターパリエタルヘルニアは、特殊型とする。
- * 内膀胱上(窩)ヘルニア、スピゲリアンヘルニア、閉鎖孔ヘルニア、スポーツヘルニアは鼠径部ヘルニア分類に含まない
- * ヘルニア類似病変があり、かつ、ヘルニア嚢を認める場合は、ヘルニア嚢の部位により L 型、M 型、F 型の鼠径部ヘルニアかを判断する。
- * ヘルニア類似病変を摘出後にヘルニア門を認める場合でも、L 型、M 型、F 型とはせずに、ヘルニア類似病変とする。